

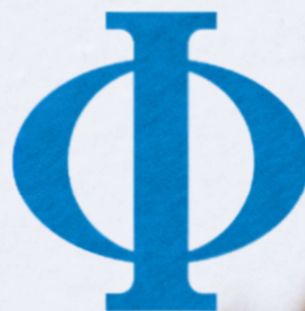
2021年度（2022年3月期）

決算説明会 連結

株式会社フコク(東証プライム:5185)
2022年5月25日

ゴムからはじまる 未来がひろがる

株式会社フコクは創業以来の「ものづくり」で培った
設計・試作・評価・量産のノウハウを集結させ
今までに無い価値を提案していきます



Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

本日はお忙しい中、株式会社フコクの22年3月期決算説明会をご視聴戴き、誠に有難うございます。

社長の小川でございます。

はじめに、フコク製品をご愛顧戴いている世界中のお客様、私達の企業活動を支えて戴いている株主の皆様、仕入先の皆様に深く感謝申し上げます。

まず、私から資料に基いてご説明した後、皆様からのご質問にお答えしたいと思います。

2/28

Agenda

1. 決算のポイント
2. 2022年3月期実績
3. 2023年3月期業績予想
4. セグメント別・地域別の状況
5. 中期経営計画
6. プライム市場上場維持基準の適合進捗
7. 株主還元

2022年3月期決算説明会 株式会社フコク(東証プライム5185) 2022年5月 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

本日は、2022年3月期実績、2023年3月期業績予想、中期経営計画進捗状況の順でご説明します。

1. 決算のポイント

2022年3月期決算説明会 株式会社フコク(東証プライム5185) 2022年5月 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

はじめに、決算のポイントを簡単にご説明します。

1. 決算のポイント

2022年3月期実績

半導体供給不足による自動車メーカーの生産調整、原材料費や輸送費および燃料費の上昇などの影響を受けたものの、新型コロナウイルス感染症の影響減による受注回復、採算改善の取り組みなどにより、前年より増収増益。

2023年3月期予想

新製品投入、受注回復による売上増加を見込む一方、原材料費や輸送費および燃料費の上昇傾向は当面続くと想定。次世代製品の開発を進めるとともに、一層の合理化・体質強化に努め、増収増益を目指す。

配当

当期期末配当金は1株当たり20円。中間配当金29円と合わせた年間配当金は49円。
来期年間配当金は、連結配当性向30%の方針に沿い、1株当たり50円の予定。

2022年3月期決算説明会 株式会社フコク(東証プライム5185) 2022年5月 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

2022年3月期の実績は、半導体不足などによる車両減産ほか外部環境の影響もありましたが、新型コロナウイルス感染症による影響からの回復と採算改善努力などにより、対前年比で増収増益となりました。

2023年3月期の業績予想は、外部環境が不透明な中ではありますが、新製品の投入や受注回復による好調な売上収益と採算改善の積み増し、変動対応力の更なる強化などを反映し、次世代製品の開発を進めながら、対前年比増収増益を目指します。

当期の年間配当は、連結配当性向30%方針に則って49円、2023年3月期予想は50円を予定し、長期・安定的に配当水準を向上させて参ります。

2. 2022年3月期実績

2. 2022年3月期実績

業績概要（連結）

（単位：百万円）

	2021年 3月期	2022年 3月期		
	実績	実績	前年増減額	前年増減率
売上高	63,214	71,504	+8,290	-
営業利益 (売上高対営業利益率)	693 (1.9%)	1,749 (2.4%)	+1,056 (+0.5pp)	+152.4%
経常利益 (売上高対経常利益率)	1,435 (2.2%)	2,522 (3.5%)	+1,087 (+1.3pp)	+75.7%
当期純利益 (売上高対当期純利益率)	1,254 (1.9%)	2,084 (2.9%)	+830 (+1.0pp)	+66.2%

※「収益認識に関する会計基準」等を当連結会計年度の期首から適用済み。売上高に影響が生じるため、売上高の対前期増減率は記載しておりません。
※pp = パーセンテージポイント

受注回復による増収に伴い増益

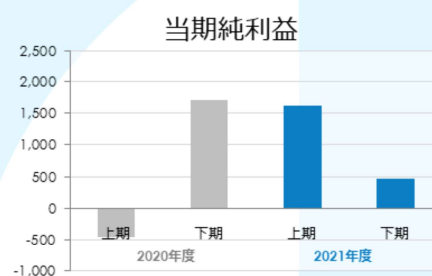
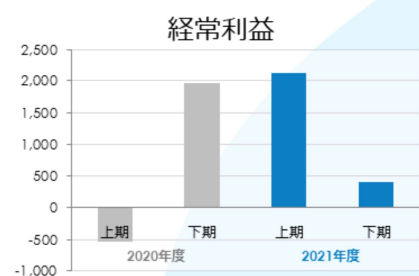
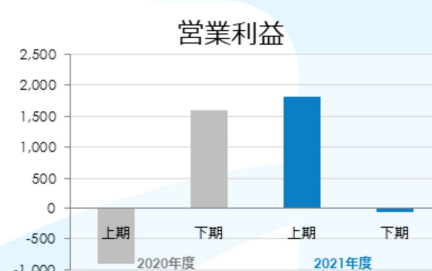
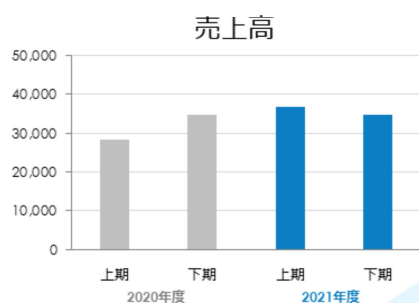
2022年3月期決算説明会 株式会社フコク(東証プライム5185) 2022年5月 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

2022年3月期の実績は、ご覧の通り、
売上高は約83億円増の715億円、営業利益17億円、経常利益25億円、当期純利益20
億円となり、対前年比増収増益を確保しました。

2. 2022年3月期実績

経営実績推移（連結・半期）

（単位：百万円）



2022年3月期決算説明会 株式会社フコク(東証プライム5185) 2022年5月 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

上期・下期に分解してみますと、ご覧の通りとなります。

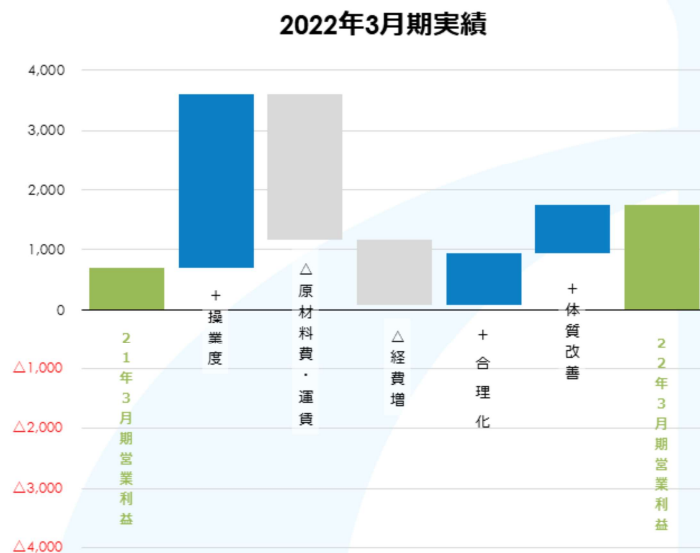
当初、下期の売上高は上期を上回る予想を立てておりましたが、半導体不足による車両減産の影響が長引き、結果的に若干下回る結果となりました。

利益については、第2四半期以降、原材料高騰の影響が大きくお客様への価格転嫁をお願いしましたが、大半の刈り取りが2022年度以降となり、ご覧のような結果となりました。

2. 2022年3月期実績

差異要因_連結営業利益（前年比）

（単位：百万円）



2022年3月期決算説明会 株式会社フコク(東証プライム5185) 2022年5月 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

対前年比、営業利益増減要因を絵にしますと、ご覧の通りになります。

売上増に伴う操業度益が28億円ほどありましたが、原材料費や輸送費高騰などの環境悪化に加えて人件費増などによる経費増があり操業度益を超える水準にまで利益を押し下げましたが、合理化・体質改善努力によりカバーし、増益を確保することができました。

2. 2022年3月期実績

財政状態、キャッシュ・フロー概要（連結）

（単位：百万円）

	2021年3月期 実績	2022年3月期 実績	前年増減額		2021年3月期 実績	2022年3月期 実績
現金及び預金	8,992	9,301	309	税引利益	1,417	2,553
受取債権	18,713	17,394	△ 1,319	減価償却費	4,344	4,369
棚卸資産	7,251	9,605	2,353	売上債権の増(△)減(+)	△ 633	2,080
その他流動資産	1,261	1,443	181	棚卸資産の増(△)減(+)	297	△ 2,004
流動資産計	36,218	37,744	1,525	仕入債務の増(+)減(△)	△ 663	△ 329
有形固定資産	25,184	24,753	△ 430	その他	△ 8	△ 1,325
その他固定資産	2,414	2,541	126	営業活動によるCF	4,754	5,344
固定資産計	27,599	27,294	△ 304	有形固定資産の取得	△ 4,325	△ 2,772
資産計	63,817	65,039	1,221	その他	298	△ 73
借入金	12,089	10,930	△ 1,159	投資活動によるCF	△ 4,026	△ 2,846
支払債務	9,441	9,926	485	借入れによる収入	3,050	2,150
その他流動固定負債	9,965	9,805	△ 159	借入金の返済による支出	△ 3,636	△ 3,512
負債計	31,496	30,662	△ 833	その他	△ 273	△ 1,452
株主資本計	30,348	31,106	757	財務活動によるCF	△ 859	△ 2,815
非支配持分	2,235	2,152	△ 82	フリー・キャッシュ・フロー	728	2,498
その他	△ 262	1,117	1,380			
純資産計	32,321	34,377	2,055			
負債・純資産計	63,817	65,039	1,221			

- 安全在庫を確保したため棚卸資産が増加、借入金は返済により減少

- 体質強化や生産体制改善に取り組んだ結果、フリー・キャッシュ・フローが改善
- 収益改善で借入金の返済が進む

2022年3月期決算説明会 株式会社フコク(東証プライム5185) 2022年5月 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

財政状態とキャッシュフローは、ご覧の通りです。

受注回復傾向にはあるものの不安定な状態が続いており安全在庫を確保した為、棚卸資産が増加しました。

借入金は返済が進み、減らすことができました。

フリーキャッシュフローも僅かずつですが、改善傾向にあります。



それでは、2023年3月期の業績見通しについて、ご説明します。

3. 2023年3月期業績予想

業績予想（連結）

	2022年 3月期	2023年 3月期		
	実績	実績	前年増減額	前年増減率
売上高	71,504	77,000	+5,496	+7.6%
営業利益 (売上高対営業利益率)	1,749 (2.4%)	3,700 (4.8%)	+1,951 (+2.4pp)	+111.5%
経常利益 (売上高対経常利益率)	2,522 (3.5%)	3,800 (4.9%)	+1,278 (+1.4pp)	+50.6%
当期純利益 (売上高対当期純利益率)	2,084 (2.9%)	2,700 (3.5%)	+616 (+0.6pp)	+29.5%

※pp=パーセンテージポイント

受注回復、合理化推進により増収増益を見込む

2022年3月期決算説明会 株式会社フコク(東証プライム5185) 2022年5月 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

外部環境がなお不透明な中ではありますが、新製品の投入や受注の回復を見込み、売上高は770億円と対前年比7%増となる予想です。

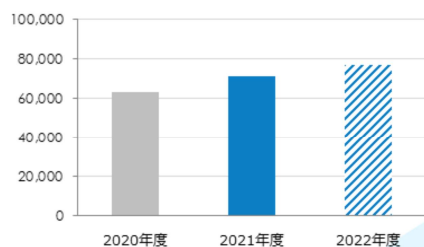
営業利益はほぼ倍増の37億円、経常利益は50%増の38億円、当期純利益は30%増の27億円を見込んでおります。

3. 2023年3月期業績予想

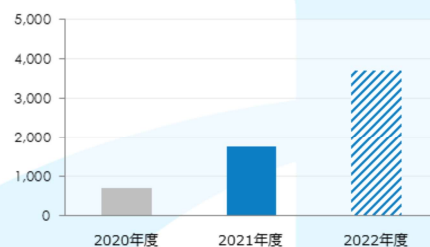
経営予想推移（連結）

（単位：百万円）

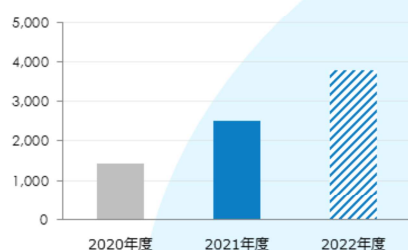
売上高



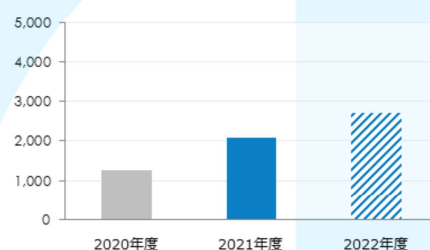
営業利益



経常利益



当期純利益



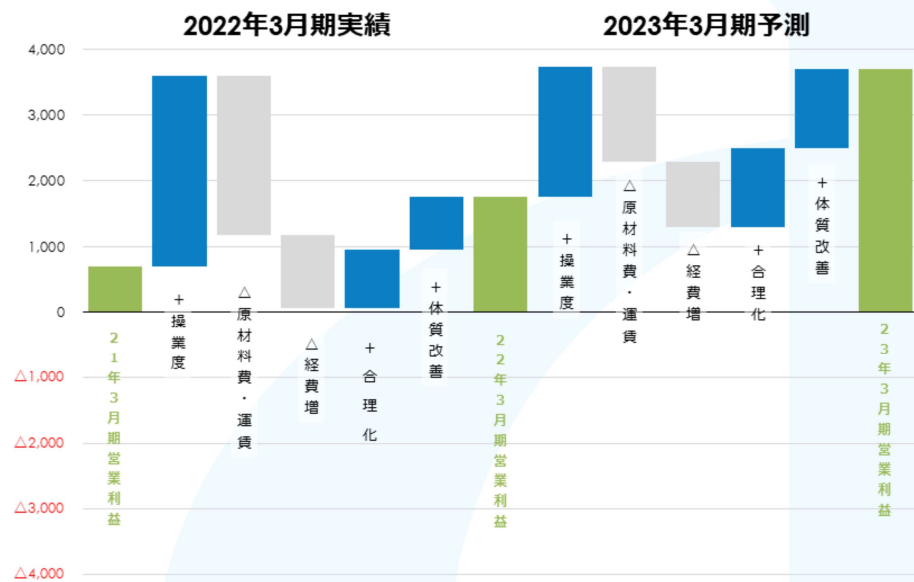
2022年3月期決算説明会 株式会社フコク(東証プライム5185) 2022年5月 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

今、ご説明した数値をグラフにしますと、ご覧の通りとなります。
2020年度以降、僅かずつではありますが、右肩上がり、増収増益傾向となっております。

3. 2023年3月期業績予想

差異要因_連結営業利益（前年比）

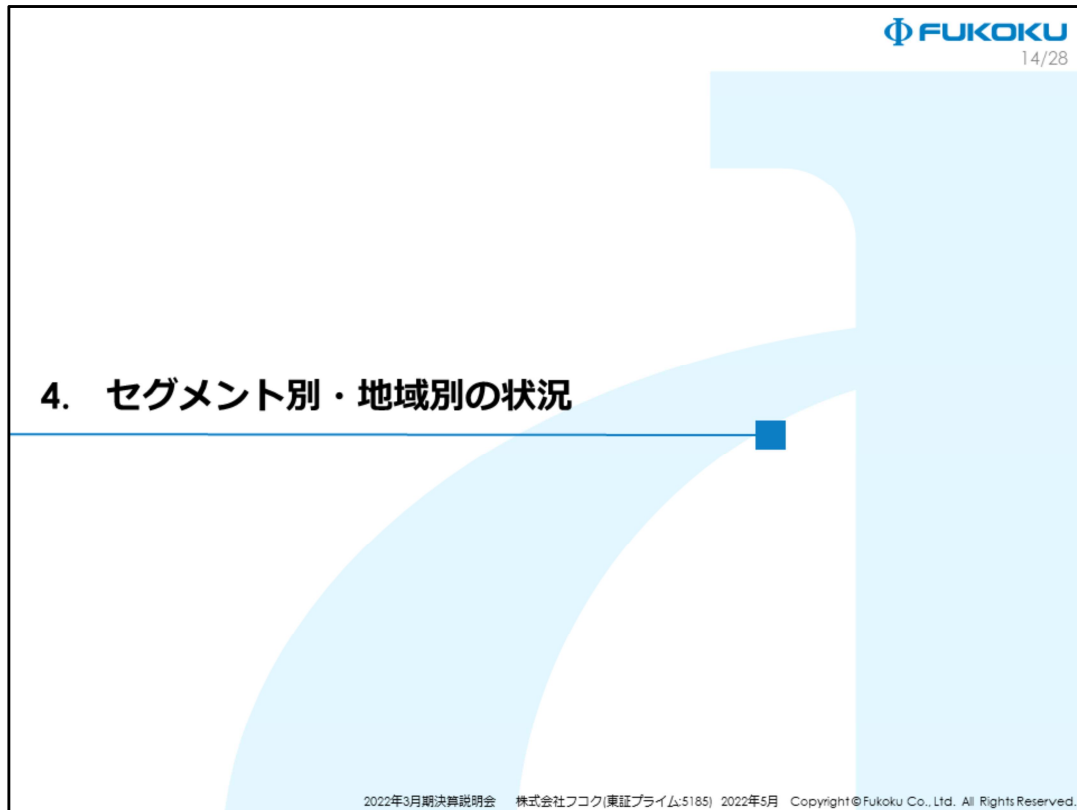
（単位：百万円）



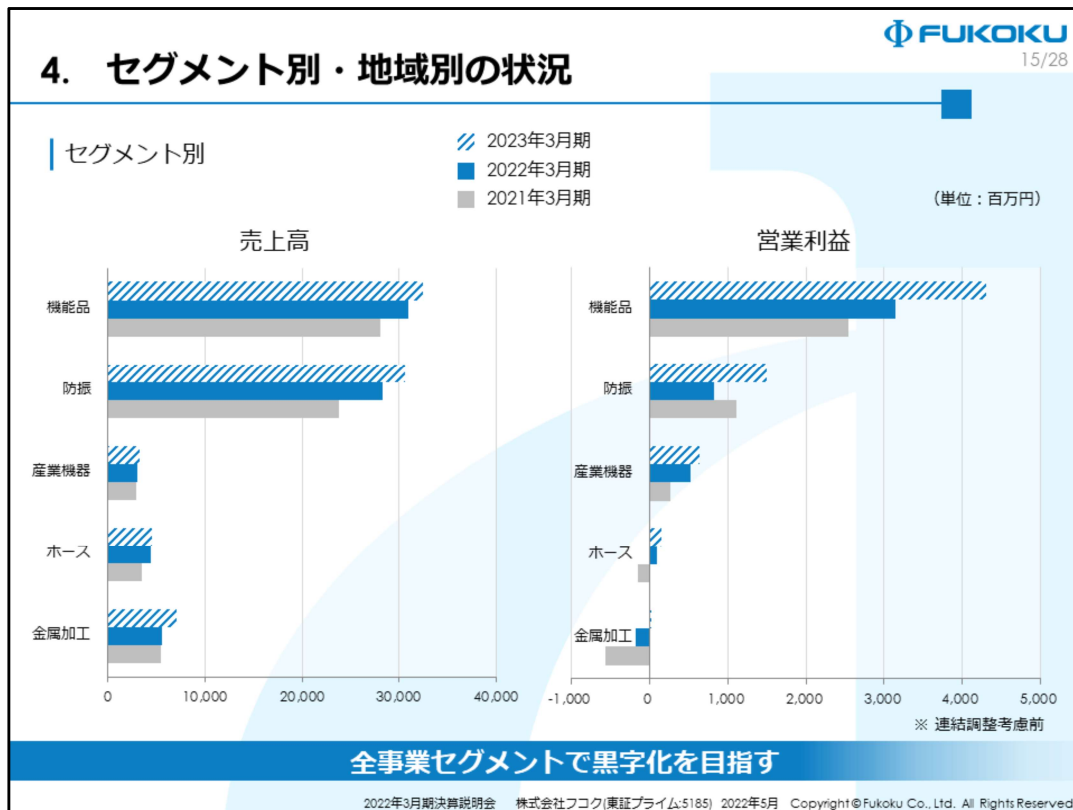
2022年3月期決算説明会 株式会社フコク(東証プライム5185) 2022年5月 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

対前年比営業利益増減要因を絵にしますと、ご覧の通りになります。

引き続き原材料費や運賃高騰による減益、また人件費を中心とした経費増による減益はあるものの、採算改善の積み増しや変動対応力の更なる強化の取り組みを反映し、操業度益を留保できるよう経営していく所存です。

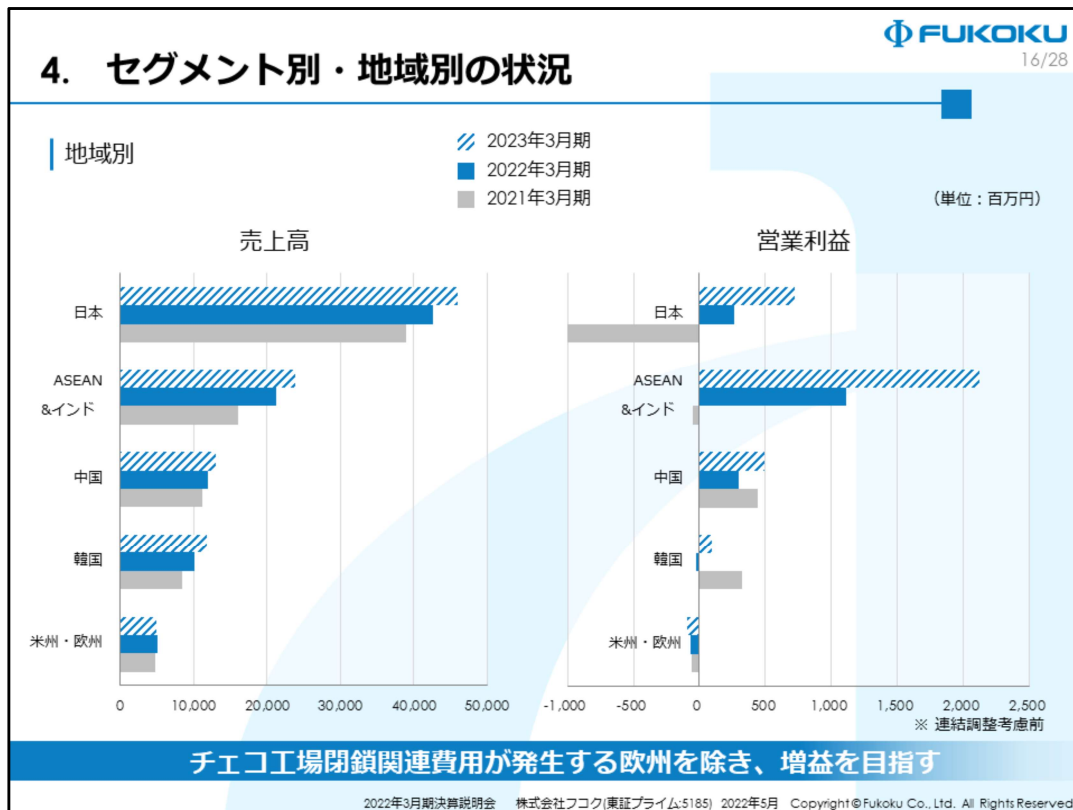


次は、セグメント別・地域別の状況をご説明します。



まず、セグメント別です。

22年3月期は金属加工で赤字幅は縮小したものの最終営業赤字を計上しましたが、23年3月期はすべての事業セグメントで黒字化を目指します。

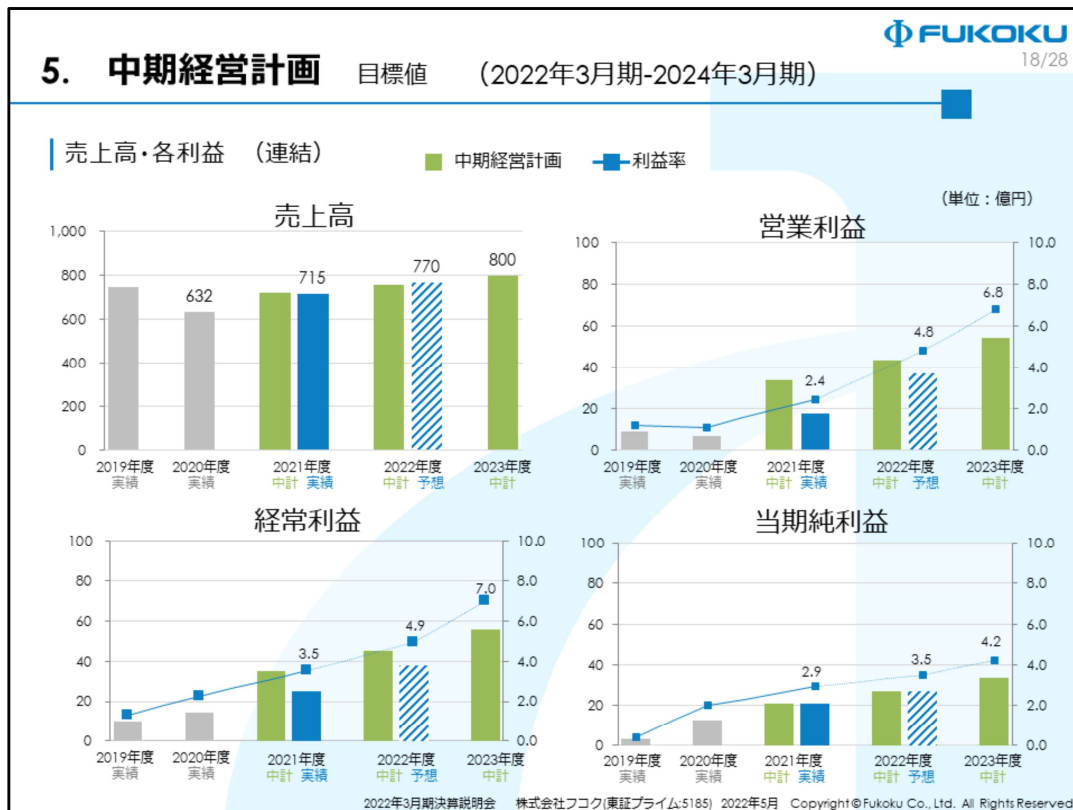


次に、地域別です。

22年3月末をもってチェコ工場を閉鎖いたしました。閉鎖に伴う費用増となる欧州地域を除き、各地域で増益を目指します。



ここからは、2021年2月発表の「中期経営計画」の進捗状況について、ご説明します。

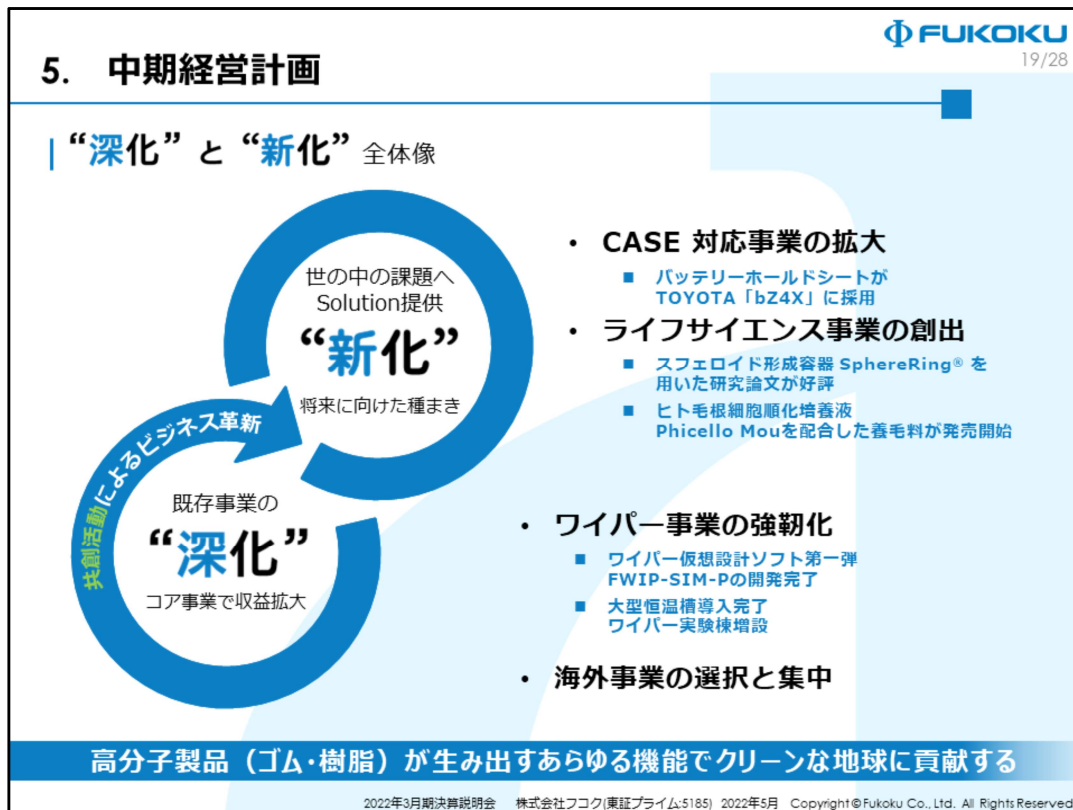


まず計数目標の達成状況です。

初年度である2022年3月期実績はご説明した通りですが、中計目標と比較しますと売上・利益ともに目標未達成に終わりました。

2年目である2023年3月期は売上高はほぼ中計目標通りですが、不透明な外部環境の影響を受け利益目標はいずれも中計目標に届いておりません。

しかし、更なる経営基盤強化の取り組みを継続し、最終年度の2024年3月期には売上・利益ともに目標を達成したいと考えております。



次に、数値目標を達成するために取り組むべき課題を整理しますと、ご覧の通りとなります。

既存事業を深掘りし更なる収益拡大をはかると同時に、将来に渡って世の中の課題にソリューションを提供するための種まきを行う、と言う2つに取り組んでおりますが、まず、既存事業の深化については、フコクのコア事業である「ワイパ事業」の強靱化を進めております。

大幅な開発期間短縮と最適形状の提案により競争力を高め、更なるシェア拡大を目指すという考え方の下、独自のシミュレーションツールの構築や実機評価設備の拡充を進めており、計画通りに進捗しております。

一方、将来に向けた種まきでは、CASE対応事業の拡大と、新事業創出の2本柱です。CASE対応では、バッテリーホールドシートが、トヨタ初のBEV bZ4Xに採用されました。また、ライフサイエンス事業では、質の高いIPS細胞の大量培養を可能にする新容器の性能を研究論文にまとめ発表したところ、高い評価を受けることができました。

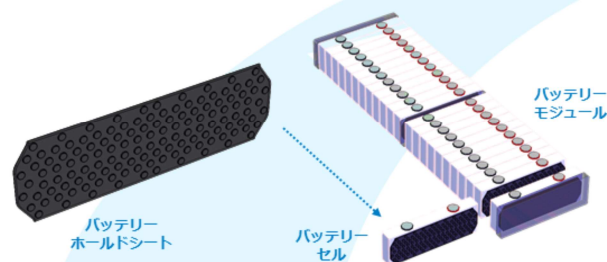
また、フコク製細胞培養液が養毛料として採用され発売開始されるなど、バイオ事業分野での伸展が拡大しております。

5. 中期経営計画“新化”

CASE 対応事業の拡大

バッテリーホールドシートが TOYOTA「bZ4X」に採用

バッテリーモジュールの性能向上や長寿命に貢献する製品を開発
TOYOTA初のバッテリー電気自動車（BEV）である「bZ4X」に採用
セルの膨張収縮を最適な力で拘束することでバッテリーの性能向上に貢献



次世代電気自動車部品の領域拡大中

2022年3月期決算説明会 株式会社フコク(東証プライム5185) 2022年5月 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

これは、バッテリーホールドシートです。

このゴム製シートは、バッテリーセル間に装着され、セルの充放電に伴う膨張収縮を最適な力で拘束することでバッテリーの性能向上に貢献しています。

詳しくは、5月16日付のニュースリリースをご覧ください。

5. 中期経営計画“新化”

ライフサイエンス事業の創出

スフェロイド※形成容器 SphereRing®を用いた研究論文が好評

※細胞同士が凝集して塊になったもの

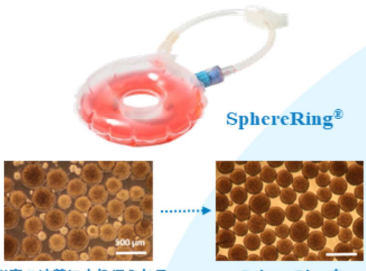
iPS細胞の高品質・高効率培養を目的とした
リング状のスフェロイド形成容器 (SphereRing®)

研究成果論文 (東京大学・金沢医科大学) が
学会関係の有力誌に掲載

**ヒト毛根細胞順化培養液 Phicello Mouを
配合した養毛料が発売開始**

発毛やヘアサイクルの制御に
重要な働きを持つ細胞として注目される
「毛乳頭細胞」をベースとして
開発製造された養毛料

21/28



従来培養により得られる
スフェロイド

SphereRingを
用いた場合



ヒト脂肪由来
幹細胞順化培養液
Phicello Mou

ASSEZ SC Scalp Lotion
(養毛頭皮ローション)

バイオ事業に代表されるライフサイエンス分野にさらなる力を入れる

2022年3月期決算説明会 株式会社フコク(東証プライム5185) 2022年5月 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

ライフサイエンス事業の創出では、特にバイオ事業に注力しています。

質の高いIPS細胞の大量培養を可能にするスフェアリングという名の新容器の開発が完了し、その性能を研究論文にまとめ発表したところ、高い評価を獲得いたしました。

これによって、培養時の過度な凝集を抑えながら均一な大きさと質の高いスフェロイドの大量形成が可能となり、細胞培養の世界で大きく貢献できるものと確信しております。

またフコク製のヒト毛根細胞順化培養液を配合した養毛料が発売開始されました。発毛やヘアサイクルの制御に重要な働きをもつ細胞として注目されております。

今後ともバイオ事業に代表されるライフサイエンス分野に注力してまいります。



22/28

5. 中期経営計画 “深化”

ワイパー事業の強靱化

**ワイパー仮想設計ソフト第一弾
FWIP-SIM-P[※]の開発完了**

※FUKOKU Wiper Simulator for Pressure

CAE等を用いワイパー仮想設計を行う事で
共創企業にソリューションを提供するシステム

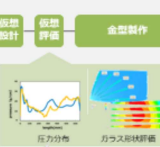
新規受注に向けた新たな取り組みとして
希望するメーカーへの展開を予定

スピード
設計



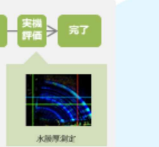
断面形状設計
パーティクル
追跡設計

仮想
設計



仮想
評価

金型製作



実機
評価

完了

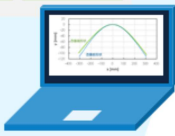




FUKOKU WIPER SIMULATOR



FUKOKU WIPER SIMULATOR FOR PRESSURE



大型恒温槽導入 ワイパー実験棟増設完了

従来お客様にお願いしていた
実車・実機レベルでの評価が自社内で可能



大型恒温槽導入



ワイパー実験棟の増設

最適な部品形状・材質を他社よりも速く提供が可能に→更なる拡販の加速

2022年3月期決算説明会 株式会社フコク(東証プライム5185) 2022年5月 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

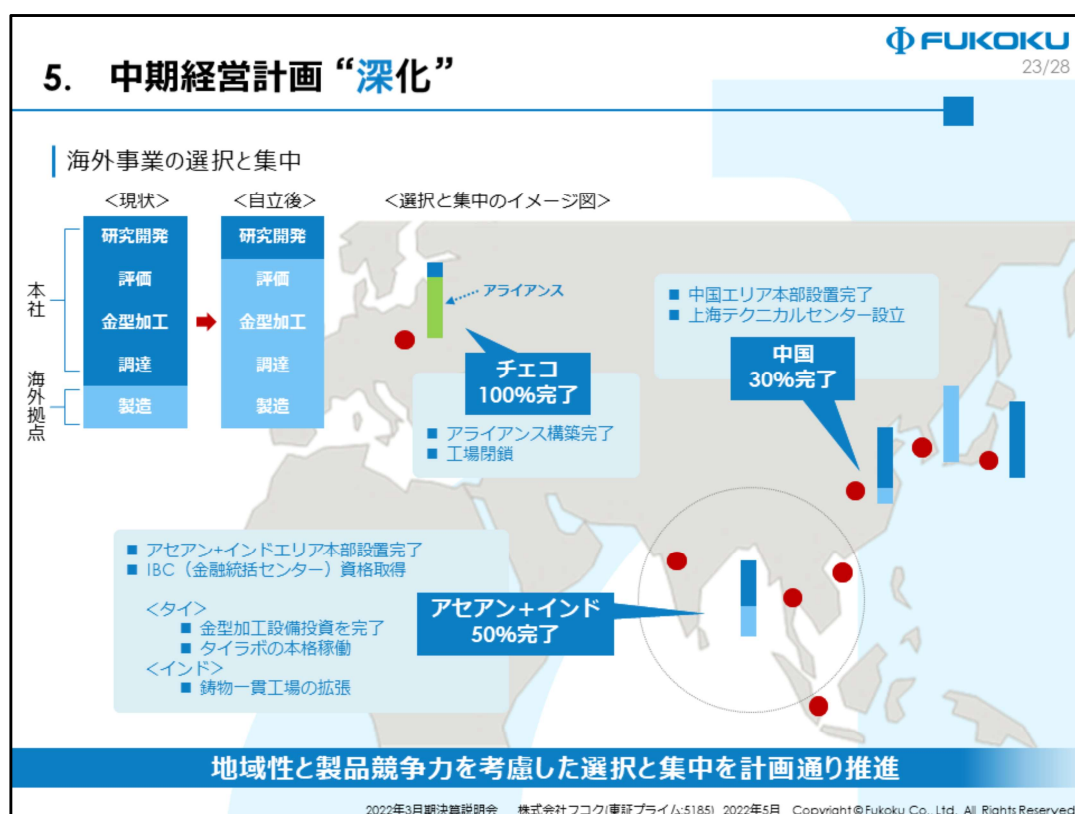
フコクのコア事業であるワイパ事業の強靱化に関する進捗状況です。

拭きの良いワイパを開発するためには、従来、試作・評価の繰り返しを必要としてきました。

EVの時代、開発期間短縮は最優先課題であり、その要求に応えるため仮想設計による最適解を提供できるシミュレーションシステムを開発完了させることが急務となっていました。その第1弾を完成させることができました。

また、大型の恒温槽も導入し、従来お客様にお願いしていた実車・実機レベルでの評価が自社内で可能となりました。

これにより最適な部品形状・材質を他社よりも速く提供することが出来るようになり、更なる拡販の加速が可能になるものと確信しております。



海外事業の選択と集中による収益拡大については、地域性と、製品競争力を考慮した選択と集中を進めております。

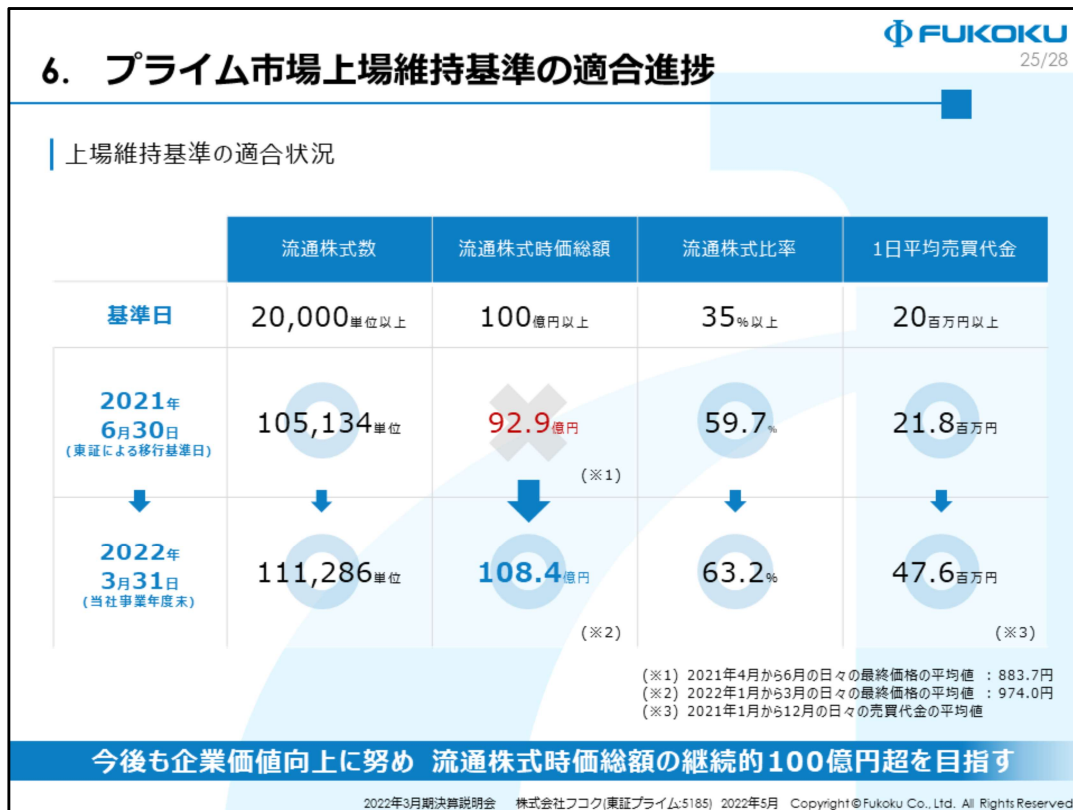
今後も市場拡大が予想されるアセアン+インド地域では、現地完結型経営への変革を進めており、エリア本部の設置が完了し、現地主導で金型工場増強のための加工設備投資を完了させ、現在はローカル社員の技能レベルの育成のため、日本人指導員の派遣、ローカル研修生の日本受入れを進めています。また、タイラボも本格稼働を開始しました。

インドでは、鋳物の鋳造から組立まで一貫工場の拡張を完了させております。

中国においても、同様のエリア本部を設立し、上海にテクニカルセンターを設立いたしました。

一方、競争力のない地域では、現地の競争力ある企業とのアライアンスを活用することにより、お客様へのサービス継続と供給責任を果たし、計画通りチェコ拠点は22年3月末をもって閉鎖しました。現在は、工場の明け渡しなどの残務整理を行っております。

6. プライム市場上場維持基準の適合進捗



本年4月より、プライム市場へ上場いたしました。

昨年末に東証に提出した「上場維持基準適合に向けた計画書」の進捗状況を報告します。

東証による移行基準日時点では、流通株式時価総額が基準未達の92.9億円でしたがその後、株価の上昇と持ち合い株の解消等による流通株式数の増加をうけて、本年3月末時点での流通株式時価総額は、15億円増加し基準を満たしております。

今後も、企業価値向上に努め、継続的に100億円超を目指して参ります。

7. 株主還元

7. 株主還元

株主還元の考え方（配当政策の基本方針）

連結配当性向 **30%**

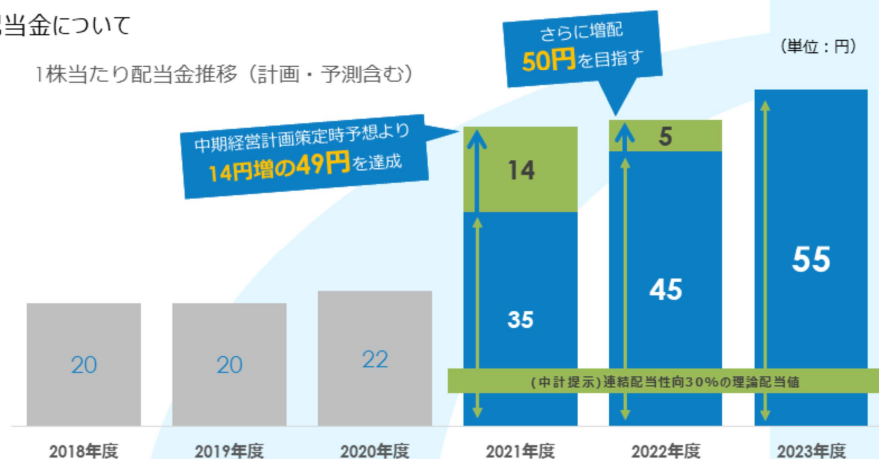
を目安とした安定配当を継続

1株当たり年間20円を下限

※ 急激な経営環境の変化により著しく業績が低迷するような場合を除く

配当金について

1株当たり配当金推移（計画・予測含む）

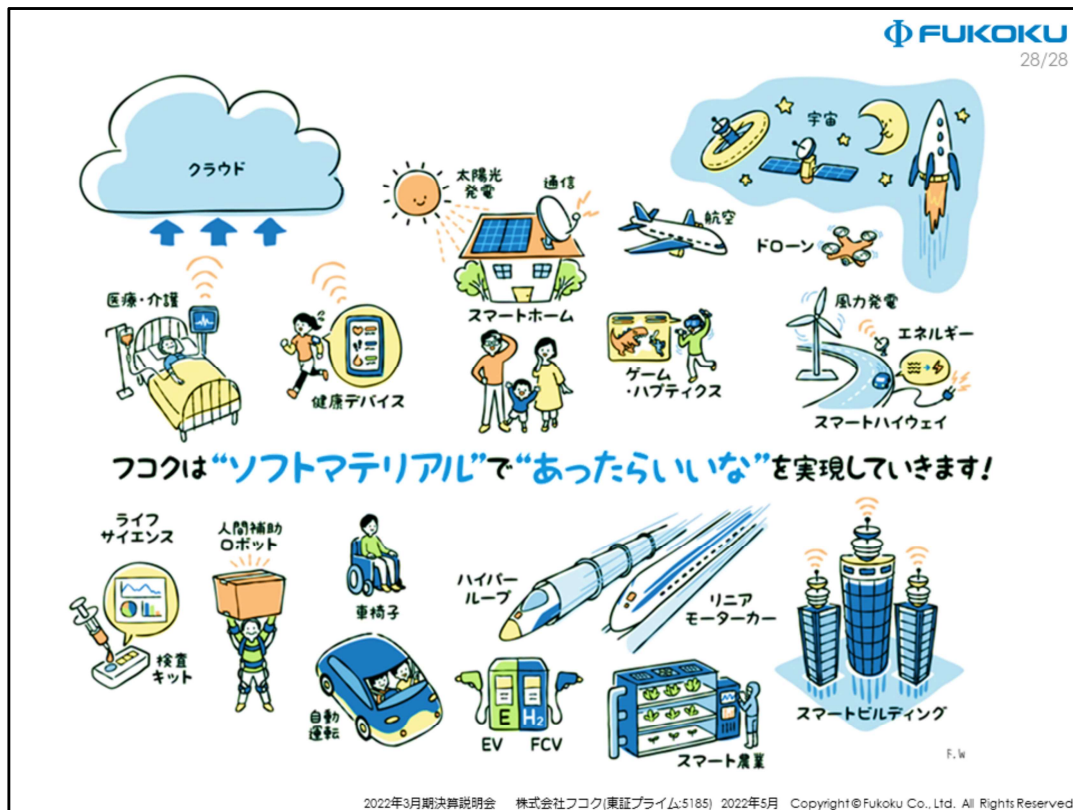


2022年3月期決算説明会 株式会社フコク(東証プライム5185) 2022年5月 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

配当政策につきましては、

連結配当性向30%を目安に安定配当を継続することを基本方針と考え、理論値ではありますが、中計でご覧のような配当計画を公表いたしました。2021年度は49円、2022年度は50円と増配を目指しております。

今後も株主の皆様への利益還元を重要な経営課題と位置づけ、企業価値の向上に取り組んで参りますので、何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。



最後になりましたが、
フコクは、これからも、「ソフトマテリアル」で「あったらいいな」を実現していきます。
どうぞ、ご期待ください。

以上で、ご説明を終わらせていただきます。



ゴムからはじまる 未来がひろがる

株式会社フコクは創業以来の「ものづくり」で培った
設計・試作・評価・量産のノウハウを集結させ
今までに無い価値を提案していきます

注意事項

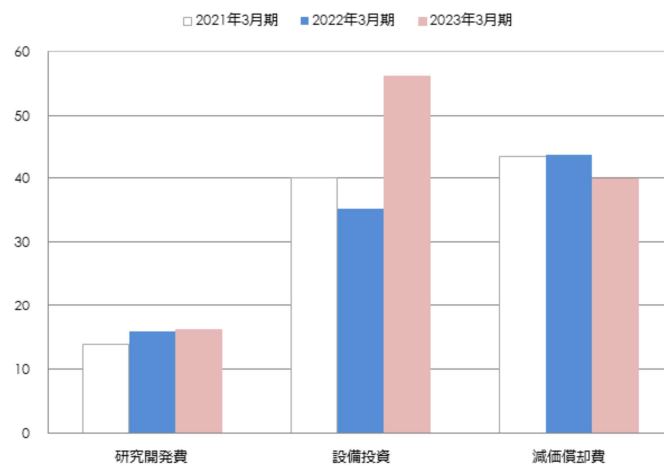
- ◆ 本資料には、株式会社フコクおよびそのグループ会社の戦略、経営計画等の将来予測に関する記述を含んでいます。本資料における記述のうち、過去又は現在の事実に関するもの以外は、将来予測に関する記述に該当します。これら将来予測に関する記述は、現時点において入手可能な情報に基き株式会社フコクおよびそのグループの仮定および判断に基づくものであり、その性質上、これらにはリスクや不確実性を内在しております。従って、当社を取り巻く事業環境、将来の業績、経営結果等と異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。
- ◆ 本資料に記載されている将来予測に関する記述は、本資料作成日現在時点のものであり、当社はそれ以降に判明した新たな情報や将来の事象により、本資料に掲載された情報を最新のものと変更する義務を負うものではありません。

Appendix

1. その他指標

研究開発費、設備投資、減価償却費

(単位：億円)



2. 会社概要

会社概要

Φ FUKOKU 株式会社 フコク

事業概要	ゴム製品、金属・合成樹脂製品、 OA・電子機器・医療用具の製造販売 等
証券コード	東京証券取引所 プライム市場 (5185)
設立	1953年 (創業69年目)
本店	埼玉県上尾市
代表者	代表取締役社長 小川 隆
従業員数	連結 4,732名、単体 1,171名 (※)
株主数	16,279人 (※)
拠点・ 関係会社	・ フコク単体 : 5工場、2事業所 ・ 関係会社 - 連結子会社 : 国内2社、海外15社 - 持分法適用会社 : 海外1社



※ 2022年3月31日現在

2022年3月期決算説明会 株式会社フコク(東証プライム5185) 2022年5月 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

2. 会社概要

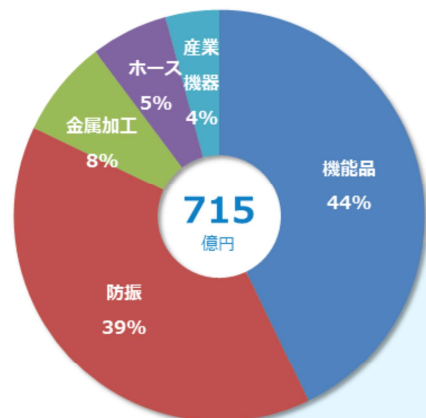
沿革

1953年	12月	創業者の河本 栄一が、 富国ゴム工業株式会社を設立
1956年	4月	ワイパーブレードラバーの技術開発に成功
1972年	9月	末吉工業株式会社に資本参加
1983年	1月	タイ国バンコク市に合弁会社タイフコク株式会社設立
1986年	1月	株式会社フコクに商号変更
1994年	10月	日本証券業協会に株式を店頭登録
1996年	2月	株式会社東京ゴム製作所に資本参加
2004年	3月	東京証券取引所 市場第二部に上場
2005年	3月	東京証券取引所 市場第一部に上場
2020年	6月	経済産業省より『2020年版グローバルニッチトップ 企業100選』に当社が選定
2020年	7月	小川 隆が代表取締役社長に就任
2022年	4月	東京証券取引所 プライム市場へ移行



2. 会社概要

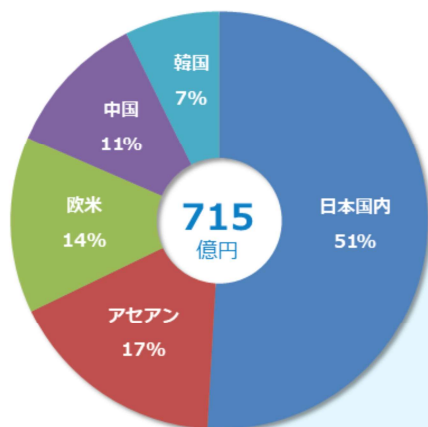
事業別売上（2021年度 連結）



2. 会社概要

地域別売上（2021年度 連結）

グローバルネットワーク



※顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

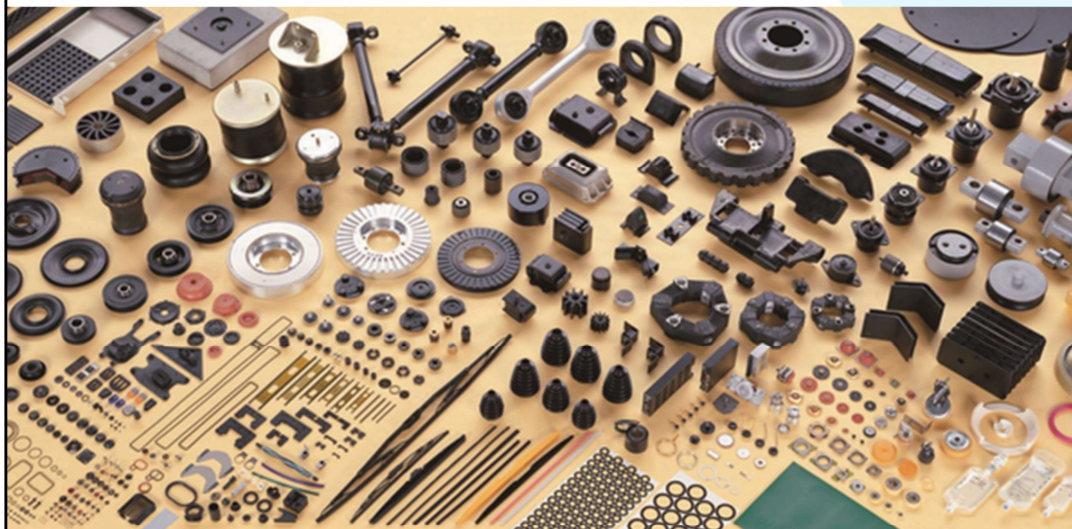


	日本 1953年		アメリカ 2001年		ベトナム 2011年
	タイ 1983年		中国 2001年		メキシコ 2014年
	韓国 1987年		インド 2010年		チェコ 2014年
	インドネシア 1997年				

※ 2022年3月閉稿

2. 会社概要

当社の特徴：多種多様な製品を生産販売



2022年3月期決算説明会 株式会社フコク(東証プライム5185) 2022年5月 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

2. 会社概要

高シェア製品

自動車分野

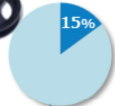
ワイパーブレード
ラバー

国内シェア
90%以上

他分野

世界
シェア
(%)
※当社推計

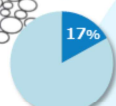
クランクシャフト
ダンパー



タイヤフラム



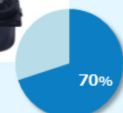
ピストンシール



等速ジョイント用
樹脂ブーツ



ビスカスマウント
(建機用)



細胞培養バッグ



インゴットワイヤーソー
メインローラー



ニッチな分野で高シェア製品を数多く輩出

2. 会社概要

表彰関連：グローバルニッチトップ企業100選 (2020年6月)

経済産業省より、国際市場開拓に取り組む企業のうち
ニッチ分野で高シェアを確保し良好な経営を
実践する企業として

「2020年版経済産業省

グローバルニッチトップ企業100選」に
選ばれました！

以下審査基準を基に、外部有識者で構成する選定評価委員会の審議を経て選定。

1. 世界シェアと利益の両立
2. 技術の独自性と自立性
3. サプライチェーン上の重要性

